

2019年10月10日

「大学共同利用機関の検証ガイドラインの骨子案」と「大学共同利用機関の検証における
主な観点と指標例案」に関する意見

北海道大学

数理・データサイエンス教育研究センター センター長
大学院 情報科学研究院 教授 長谷山 美紀

大学共同利用機関の研究領域は多様であり、その多様性は大学共同利用機関の役割から維持される必要がある。そのため、「大学共同利用機関として備えるべき要件」に基づいて行われる自己点検・外部検証については、それぞれに応じた評価が行われることを求める。一方、大学共同利用機関の基本的な役割を示すものとして共通の定義も設定されていることから、今後の新たな利用を促し広く研究者に理解されるためにも、共通指標の必要性が否定できない。大学共同利用機関の生み出す成果が社会に理解されるためには、共通指標を検討する必要があるのではないか。

「大学共同利用機関の検証」における主な観点と指標例（案）に示される進め方には、大学共同利用の役割を担うための固有の検証が明確でないものが見受けられる。示された観
点の指標例は、大学における研究力評価の数値指標と重複が多く、大学共同利用機関の独自
性の評価を実施することが見え難い。評価結果を見ても、その在るべき姿や貢献について理
解が得られ難い可能性がある。

大学共同利用機関における評価の労力を増やすことは、本来の業務に影響を与える。広
く用いられている研究業績データベースから抽出する方法を考える必要がある。これは、
「大学共同利用機関の検証ガイドライン」骨子案に記載されるように、評価資料の作成の負
担を減少するだけでなく、他者も利用するデータを成果の根拠とすることで、評価の透明性
を担保し、評価結果への信頼性を高めるためにも検討すべきである。

以下、具体的項目について気付いた点を記載する。該当の文章を斜体で示し、意見を「➡」
の右に記載する。

①検証の進め方（参考資料1）について**3. 検証の主体別構成**

①自己検証 「…本ガイドラインに基づき、必要に応じ海外の研究機関に属する研究者等の意見を聴取しつ
つ自己検証を実施する。」

➡ 海外の研究機関の意見聴取は、国際化の観点に由来するものと理解するが、国際化は大学
共同利用機関の目的でなく、目的達成の一つの手段と考え、指標の設定には配慮が必要で

ある。

②外部検証

…研究環境基盤部会大学共同利用機関改革に関する作業部会…の委員を中心に、専門性等に配慮し所要の専門委員を加える体制とする。

➡ 大学共同利用機関の関係者が互いに委員になることについて配慮されているかが不明である。

4. 検証の基準

○ 主な観点は、…研究所としての研究機能のみならず、共同利用・共同研究を通じて全国の研究者コミュニティに貢献する機能を有しているか確認できるよう、…設定する。

➡ 研究者コミュニティとは何か、また、それに貢献する機能とは何か不明瞭である。検証の趣旨から、「学術研究の発展に資する」こととの関係が曖昧と思われる。

6. 検証結果報告書等

○ なお、大学共同利用機関等における関係データの収集、書類の作成等に係る負担の軽減にも配慮するため、各大学共同利用機関における共同利用・共同研究等の実績を示す既存のデータを可能な限り活用する。

➡ 先に記載の通り。

7. 検証の結果

○ 1. のとおり、本検証は、中長期的に各大学共同利用機関が大学共同利用機関として求められる役割を担うことが可能か、再編・統合等を含めその在り方を明らかにするものであり、相互の優劣を比較するものではない。

➡ 相互の「何について」優劣を比較するものではないのか不明。

② 主な観点（参考資料2）について

<運営面> 【主な観点】

○ ……当該機関の長の諮問に応じる会議体として、①当該機関の職員、②①以外の関連研究者及び①②以外でその他機関の長が必要と認める者の委員で組織する運営委員会等を置き、①の委員の数が全委員の数の2分の1以下であること

➡ ①の当該機関の定義は、機構か機関全体か曖昧である。

<中核拠点性> 【主な観点】

○ 当該機関に属さない関連研究者が当該機関を利用して行った共同利用・共同研究による研究実績やその水準について、……当該研究分野において著しく高い成果を上げていると認められること

➡ 分野によっては、「著しく高い」ことを（短期間に数値根拠を持って）示すことは難しく、評価される機関に不要な負担を強いるのではないか。

○ 共同利用・共同研究の課題等を広く国内外の関連研究者から募集し、関連研究者その他の当該機関の職員以外の者の委員の数が全委員の数の2分の1以上である組織の議を経て採択が行われていること

➡ （先の記載と同様に）当該機関の定義に曖昧さが残る。

<国際性> 【主な観点】

○ 海外の研究機関に在籍する研究者（以下「海外研究者」）をアドバイザーや外部評価委員、運営委員会等の委員に任命するなど、・・・運営に反映するために必要な体制が整備されていること

➡ （先の記載と同様に）国際化は大学共同利用機関の目的でなく、目的達成の一つの手段となり得るとの考えに基づき、指標を設定する必要がある。

○ 研究者の在籍状況について、・・・国際的に中核的な研究施設であると認められること

➡ 各大学共同利用機関の特徴によっては、研究者在籍状況で国際的中核施設であると主張することが指標になるとは限らない。機関の特徴に合わせた設定が必要と考える。

○ 女性研究者や外国人研究者など人材の多様性や流動性の確保のための支援・取組が行われていること

➡ 女性研究者の記載は、<国際性>の視点か疑問である。

<研究資源> 【主な観点】

○ （全4項目）

➡ 全ての観点について、各機関が評価すべきか疑問が残る。取り組みを行うことで目的を達成する（生み出されるものを評価する）ことに注力するよう配慮が必要と思われる。

<新分野の創出> 【主な観点】

○ 学際的・融合的領域における当該機関の研究実績やその水準について、・・・著しく高い成果を・・・

○ 学際的・融合的領域において当該機関に属さない・・・、著しく高い成果を上げていると・・・

➡ （先の記載と同様に）分野によっては、「著しく高い」ことを（短期間に数値根拠をもって）示すことは難しい。

全体を通して、「大学共同利用機関が自己検証をする際の観点として有効」であることと同時に、大学共同利用機関法人や大学共同利用機関全体の貢献が社会に理解される必要があり、観点到社会利用や実装の視点を含めることを検討されたい。

③ 指標例（参考資料2）について

<中核拠点性> [指標例]

- ・当該機関の研究活動の状況（論文数、国際共著論文の数・割合、TOP10 %論文の数・割合、・・・）
- ・英語又は英語以外の外国語で書かれ、海外で刊行された単著・国際共著書、・・・
- ・有力な国際会議や海外での会議・研究会への招待講演・招待発表・招待報告の実績
- ・共同利用・共同研究の実施状況（受入共同研究者数等）

<国際性> [指標例]

- ・国際的な研究活動の状況（国際共著論文の数・割合、国際共同研究の内容と実施件数、・・・）
- ・受入れの状況、国際協定の締結状況、海外への協力・貢献の状況、国際シンポジウム等・・・
- ・国際的な研究者の在籍状況（国際学会の長、国際研究プロジェクトの長、・・・受賞等の経験や科学研究費補助金の採択状況等）

➡ 大学評価とほぼ同じであり、大学共同利用機関の役割や存在意義を主張する固有性が見え難い。評価を実施する機関が、その果たす役割を踏まえた指標を設計できるよう配慮が必要と思われる。

<新分野の創出> [指標例]

- ・(3項目)

➡ 新領域創出を測る指標例となっているか疑問が残る。示された例では、大学共同利用機関が評価を行う際に、明確な指標設計が難しいと思われる。

<社会との関わり> [指標例]

- ・産学連携状況（産学連携論文数、特許出願数等）

➡ 社会の課題解決に積極的に取り組むことを高く評価するよう、社会実装の指標例を検討してはどうか。

④ 機能別分類（大型設備・データ・情報基盤）の観点

データサイエンス教育やA Iの社会利用など、研究教育活動の人材不足が大きな問題となっている。大学共同利用機関における今までの取り組みを発展することで、この問題の解決に寄与できるものとする。そのためには、機能別分類の大型設備・データ・情報基盤について、個別の定義にとらわれない自由度を与える検討が必要と思われる。

⑤ 大学共同利用機関に対する今後の期待

一つの大学では保持することが難しい大型設備や大規模データベースの利用など、大学における学術研究の発展に資する共同利用に期待する。また、地方大学における利用を促す仕組みを検討頂き、新規利用大学の積極的な増加策を検討頂きたい。利用を促すことで、今

までに見られない研究者のグループとの人事交流が生まれることで、新しい学術領域の創出に繋がることを期待する。